■第61回企画展

野生動物と生きる ～岩手のシカとクマ～

会期：平成21年10月3日㈯～12月6日㈰　　会場：特別展示室

シカとクマ、知っていますか？

ニホンジカとツキノワグマ。本州にすむ野生の獣の中で、最も大きいのがこの２種です。彼らがどのような動物で、どんな風に暮らしているのか、一般にはあまり知られていません。しかし岩手では今、シカとクマはとても身近な存在になりつつあります。山奥に隠れ棲（す）むのでなく、人里のすぐ近くにいるのです。

この企画展では、ニホンジカとツキノワグマの知られざる生態、岩手県における現状を詳しく紹介します。シカやクマはもちろん、様々な大型動物の迫力ある剥製（はくせい）や骨格標本、見ごたえのある生態写真や映像を展示します。この秋、シカやクマにくわしくなってみませんか。

シカってどんな動物？

岩手では、シカをよく見たことがないという方も多いかもしれません。

シカはカモシカと同じように扱われることがありますが、まったく違う動物です。シカはシカ科、カモシカはウシ科に属します。見た目の大きな違いは角にあります。カモシカには、まっすぐで短い２本の角が、雄と雌の両方にあります。一方、シカの角は長く枝分かれをしており、雄にしかありません。シカの角は毎年春に落ち、夏に新しい角が伸びてきます。展覧会では、大船渡で飼育されていたシカの一生分の角標本をご覧下さい。

1頭のシカの一生分の角（大船渡市立博物館蔵）

夏のオスの集団

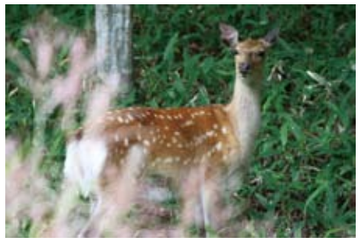
増えて広がるシカ

実は、江戸時代には岩手県の北部までシカが分布していました。展示では、盛岡藩の大規模な鹿狩りの様子が記された文書等を紹介します。

明治以後、シカは狩猟によってほとんどの地域から姿を消し、残るは五葉山周辺のみとなったため、「北限のシカ」として保護されました。しかし、1970年頃から爆発的に増え始め、大船渡市周辺では、農林業の被害が大きな問題となっています。分布も再び広がりつつあり、現在では盛岡市や岩泉町でも目撃されています。そこで県では、シカが増えすぎないよう、狩猟などによって個体数を抑える管理計画を立て、実施しています。

シカの生態

夏、シカは生い茂った植物を食べて成長します。秋に繁殖期を迎え、妊娠した雌は翌春に出産します。冬は、シカにとって大変辛い季節です。雪が積もると餌が不足する上に歩きにくくなるため、子どもや年老いた個体の死亡率が高まります。



夏のメスのシカ

シカは繁殖力が強く、高密度になっても大集団を作って生きることができます。毒や棘（とげ）のある植物を除いて、ほとんどの植物を食べることができ、草がなければ樹の皮もむいて食べます。

シカが増えすぎた山では、植物が急速に消えていき、やがて生態系全体に影響が及び、土壌流出が起こり始めます。これは今、日本各地で進行中の大問題です。

繁殖期のオスのシカ

クマってどんな動物？

地球上にいるクマ科８種のうち、北海道にはヒグマ、本州・四国・九州にはツキノワグマだけが棲んでいます。四国と九州では数が少なく、絶滅寸前と考えられています。岩手県には、およそ1100頭のツキノワグマがいると推定されており、国内最大の生息地のひとつです。

クマ形土製品（上杉沢遺跡出土・二戸市蔵）

クマへの畏敬

クマは森に棲み、単独行動をするので人目につきにくい上、大きな体に鋭い爪（つめ）と牙（きば）をもち、遭遇すれば危険な動物です。そのため縄文の時代から現代まで、人々はクマに対して畏敬の念を抱いてきました。展覧会では、二戸市の縄文晩期の遺跡から出土したクマ形土製品などを展示し、クマと人の関係について考えます。

謎の多いクマの生態

クマは謎の多い生き物ですが、特に不思議なのは冬眠です。岩手県では、クマは12月になると山の中で穴にもぐり、4月の中旬頃から再び出てきます。その間、クマは飲まず食わず、排尿も排便もしません。また、雌は冬眠中に出産を行います。どんな体の仕組みがこんな行動を可能にしているかはよく分かっておらず、今も研究が進められています。

ツキノワグマ　山から里へ

近年、クマが人里に頻繁に姿を現し、農林業被害や人身事故の原因となっています。2004年と2006年には日本全国でクマの「異常出没」が起き、世間を騒がせたのは記憶に新しいところです。

ツキノワグマは雑食性で、主な食べ物は草木の果実と葉など、それに昆虫です。秋には、ミズナラやブナなどの木の実を大量に食べます。

近年の異常出没は、山の木の実りが少ない年に起きていることが研究者によって指摘されていますが、因果関係は明らかではありません。山奥まで植林が進み、クマの食べる木の実が減ったことや、クマがやぶに紛（まぎ）れて人家に近づきやすくなっていることも一因とされます。

岩手県では、毎年100～200頭のクマが捕獲され、そのほとんどが危険であるとして駆除されます。岩手のクマと人とが共存していくため、クマの生態を知る調査が行われ、クマによる被害を減らす方法が模索されています。展覧会では、こうした試みについても紹介します。

身近でありながら意外と知られていないシカとクマ。彼らと共存する未来について、一緒に考えてみませんか。

（学芸第三課長　藤井忠志・専門学芸員　鈴木まほろ）

参考文献：岩手県（2007）、齊藤・青井（2003）、高槻（2006）、山内（2007）、山崎（2008）ほか

ミズナラの実を食べる子どものクマ（佐藤嘉宏氏撮影）

もよおし

■文化講演会

11月3日（火・祝）13:30～15:30　講堂　当日受付　無料

「岩手のシカとクマ　―共存の道をさぐる―」

講師：三浦慎悟氏（早稲田大学人間科学学術院教授）

■秋期セミナー　連続4回　いずれも13:30～15:00　講堂　当日受付　無料

10月11日㈰　横田　博氏（野生動物カメラマン）

「日光に生きる野生動物　ツキノワグマとシカなど」

10月25日㈰　山内貴義氏（岩手県環境保健研究センター主任専門研究員）

「駆除か保護か？　―クマとシカの生態と岩手における保護管理の現状―」

11月　8日㈰　佐藤嘉宏氏（一関市立厳美小学校副校長）

「岩手ののけものたち　～嫌われる動物　クマとシカの生態を追って～」

11月22日㈰　岡　惠介氏（東北文化学園大学総合政策学部教授）

「北上山地の人々の暮らしと野生動物の利用」

■第58回自然観察会　10月18日㈰13:00～15:30

「繁殖期のシカウォッチング」大船渡市大窪山　講師：佐藤嘉宏氏

要事前申込　くわしくはお問い合わせください。

■展示解説会

10月4日㈰・11月1日㈰　いずれも14:30～15:30　要入館料